

自ら学ぶ教職員 活動報告書

グループ名 ティール組織研究グループ

テーマ 進化型学校組織の開発

取組のポイント・成果

1. 取組の内容とポイント

本活動の目的は、若手・中堅・ベテランで構成されたチームが自主的に研究に取り組み、有識者の指導により学術的な知見を加え、進化型の学校組織を開発することにある。

本活動において、チーム構成員がこれまでの活動で得た経験知と、有識者講話から得る先進的な組織マネジメント論や開発方法などの学習知を併用し、働きやすく働き甲斐のある進化型の学校組織を検討する。

(1) 有識者による講習会

講師：岐阜大学 教育学研究科 教職実践開発専攻 教授 棚野 勝文 様

日時：令和3年10月19日(火)・11月8日(月)・12月7日(火) 全て16:45～18:45に実施

会場：大垣工業高校 電子機械科棟3階自動制御実習室・2階計装実習室

約2時間の講習会では、1～1.5時間は学習シート(別添)を用いた講義が行われ、残り時間は棚野教授とのフリートーキングに充てられた。全構成員が棚野教授に対し積極的に発言する姿が見られた。これからの教員組織の在り方に興味を抱く様子が伺えた。撮影させていただいた動画および用意していただいた学習シートは、今後の学習を継続させるうえで貴重な財産となった。

(2) 文献を活用した自主学习

棚野教授から複数の学習用文献をご紹介いただいた。『OECD Education 2030 プロジェクトが描く 教育の未来(2020、白井俊著、ミネルヴァ書房)』・『なぜ「偏差値50の公立高校」が世界のトップ大学から注目されるようになったのか(2018、日野田直彦著、IBCパブリッシング)』の2冊は構成員代表者が熟読し、他の構成員と内容を共有した。『痴呆老人』は何をみているか(2008、大井玄著、新潮社)は、構成員代表者を含めた中堅教員4名に配布し、それぞれが熟読した。

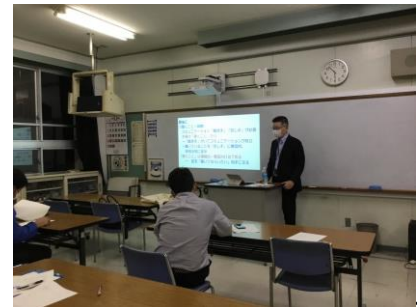
2. 成果

(1) 学校組織におけるリーダーに必要な知識の習得

今後変化する学校経営を見据え展開された「リーダーシップ」、「コーチング理論」、「個別最適な学び」を講習会で学ぶことができた。学校組織の中心人物としての必要な知識を身に付けることができた。

(2) 学術的知見獲得に向けた学習意欲向上

有識者による講習会を重ねることで、構成員がリーダーシップ論の学習意欲向上などが終了後アンケートから把握できた。



今後の課題

1. 教員の学習環境構築

教育現場である学校は多忙である。今回の構成員は分掌中心教員や担任業務・部活動業務に積極的な教員であり、多忙を極めている。意欲的な教員に対する継続的に学習することができる環境の構築が課題である。

2. 新たな学校組織の検討

今回の取り組みを通して、学校が変化していく方向を知り、リーダーに必要な知見を身に付けることができた。今回不十分であった新たな学校組織の検討を今後も継続し、時代に即した学校づくりに中心人物としていかに貢献していくかが課題である。